

製品名: MYL2 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab14306**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300,ELISA 1:2000-1:20000
分子量	18kDa

抗原情報

遺伝子名	MYL2
別名	Myosin regulatory light chain 2, ventricular/cardiac muscle isoform (MLC-2) (MLC-2v)
遺伝子 ID	4633.0
SwissProt ID	P10916
免疫原	ヒト MYL2 由来の合成ペプチド。アミノ酸範囲: 91-140

背景

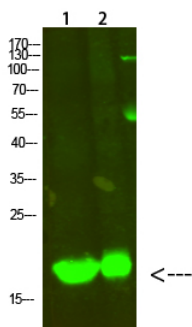
この遺伝子は、心筋ミオシン β （または遅筋）重鎖に関連する調節性軽鎖をコードしています。Ca⁺は調節性軽鎖のリン酸化を引き起こし、それが収縮を引き起こします。この遺伝子の変異は、中左室室型肥大型心筋症と関連しています。[RefSeq 提供、2008 年 7

月]、疾患：MYL2 の欠陥は、家族性肥大型心筋症 10 型 (CMH10) [MIM:608758]の原因です。家族性肥大型心筋症は、通常は非対称性の心室肥大を特徴とする遺伝性心疾患で、しばしば心室中隔が侵されます。症状には、呼吸困難、失神、虚脱、動悸、胸痛などがあります。これらの症状は運動によって容易に誘発される可能性があります。この疾患は、良性から悪性まで、家族内および家族間で多様性があり、心不全や突然死のリスクが高い。、疾患：MYL2 遺伝子の欠陥は、中左室心室肥大型心筋症 2 型 (MVC2) [MIM:608758]の原因である。MVC2 は、中左室心室肥厚を特徴とする家族性肥大型心筋症の非常にまれな亜型である。、その他：この鎖はカルシウムと結合する。、類似性：3つのEFハンドドメインを含む。、サブユニット：ミオシンは、2つの重鎖と4つの軽鎖からなる6量体である。、

研究分野

心筋収縮、接着斑、タイトジャンクション、白血球の内皮透過移動、アクチンと細胞骨格の調節、肥大型心筋症 (HCM)、拡張型心筋症。

画像データ



MYL2 ウサギポリクローナル抗体 (1:500 希釈、4°C、一晩) を用いた 1,マウス心臓、2,HeLa 細胞のウェスタンブロット解析。二次抗体：ヤギ抗ウサギ IgG IRDye 800 (1:5000 希釈、25°C、1 時間)